



11/27 総合的な探究発表会

校長挨拶及び趣旨説明より一部抜粋

2022年度に高校では新学習指導要領が施行されますが、「総合的な探究の時間」はその目玉として、2019年入学生から先行実施されたものです。その目標は学習指導要領に次のように記されています。「探究に主体的に取り組むとともに、多様性を認識し、互いの良さを生かしながら協働して新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う」。それを受けて本校では、「確かな学力のうえに豊かな創造性と個性を備え、正義・倫理を持った市民として、地域社会の将来を担う人材の育成」を目標に試行錯誤を重ねて参りました。

その中で私たちが決して忘れられない、忘れてはならないのが東日本大震災でした。この地域は明治三陸大津波・昭和三陸大津波・チリ地震津波と、近代以降三度にわたる甚大な人的被害を出したにもかかわらず、四度目のそして最大の地震津波を経験することになりました。教訓はなぜ生かされなかったのか、非常に重いテーマですが、その疑問の中から浮かんだのが、1年生による「碑の探究」でした。二度と津波による犠牲者を出さないとの強いメッセージの発信を、この後お聞きいただければと思います。そして命を守ったら、次にすべきことは「震災からの復活」です。2年生では、復活の軌跡を探究することで、その思いを次の世代に受け継いでいく、新たな価値の創造をお聞きいただきたいです。さらに本日の発表はありませんが、3年生は「地域の将来に向けての提言」ということで、持続可能な地域創造のために、普遍的価値の確立に取り組むこととなります。本校では、この3年間の探究のサイクルが、ほぼ完成しつつあります。

1年生 碑の記憶

いわての復興教育推進事業（いわての復興教育スクール）

9/15(火)、1年生31名は、過去の震災を語る石碑を題材とし、防災に対する知見を学び、自身の体験も踏まえて震災を語り継ぐことを目標に、総合的な探究校外学習を実施しました。

1年A組 昆 留偉 さん

ただそこにあるだけでなく、きちんとした理由があって、そこに建っていることを改めて知った。織笠小のところにある石碑はなんとなく分かっていました。しかし、他のところにもあるとは思っていなかったもので、初めて知ること多かったです。大沢の箱石さんの家で聞いた話で、津波だけでなく戦争の頃のことや他の話も聞くことができてとても勉強になった。

1年A組 坂本 純子 さん

校外学習を通して、多くのことを実際に見て聞いて学ぶことができました。私は、東日本大震災の経験をしていないので、町の変わり果てた様子しか知ることができませんでした。当時のことは、テレビでしか見ることができなかったため、分かることは少ないです。しかし、今回の話を聞くことで、多くの大切なことについて分かりました。「命を守ることを、大切にすること」はとても大切なことで、碑でその思いを伝えていこうとすることがよく分かりました。私もこの先大人になったら、



教わったことを周りの自分の家族に伝えていけるようにしていきたいです。

1年B組 佐々木 幸来 さん

語り部の方々は、ほとんど高齢者だということが分かりました。田の浜の中村さんは100歳で、この年齢になっても語ってくれているのがすごかったです。中村さんの伝えたいという意志をととも感じ取ることができました。織笠の方も、足がよくないようでしたが、雨の中にもかかわらず、外で語ってくれて、人生の先輩が一生懸命語って伝えてくれたことを、次は自分たちが伝えていかなければいけないと感じました。

1年B組 佐藤 亜美 さん

当日はすごい雨の中、お話を聞きながら、メモをとるのは大変でしたが、しっかり聞いて当時の様子が浮かんできました。震災の時には、たくさんの方々のおかげやボランティアで助かったと聞き、誰かのためになるならば、私もボランティアをしたいと思いました。碑は大切な家族や友人を守るため、出来事を風化させないためと聞いたので、今度は私たちが語り部となり、風化させないようにしたいです。

本校ホームページ

2年生「総合的な探究」新設

2年生は、総合的な探究「復活の記憶」に取り組んでいます。山田町の災害史や東日本大震災からの復興を伝えた新聞を学習教材とし、復興・防災学習を進めていく企画です。生徒たちが作成した「碑の記憶」や「復興の記憶を語る」ゲーグルマイマップと、同町の新たな観光拠点として期待されるオランダ島を探究して考えた復興への道しるべを、自らホームページにまとめました。

全8班のまとめが掲載されていますので、是非本校ホームページを検索していただければと思います。

オランダ島での感想

1班 上澤知征、大久保花蓮、東 良美、上野美海

私たちは10/1にオランダ島に行き、避難訓練と島の清掃をしました。避難訓練をして分かったことがありました。それは、避難路が2つしかないことです。そのため、避難が間に合わず、逃げ遅れたらとても危険だと思います。今後、避難路をもっと増やす必要があると思います。また、避難路の階段がとても急なので、お年寄りや体が不自由な人が避難するのはとても大変だと思います。階段を作り直すべきだと思います。このように、たくさん改善点がありますが、これからたくさん観光客が来るように、たくさんイベントを開催して、オランダ島が全国に知られてほしいと思いました。



オランダ島を体感して

8班 芳賀亮海、馬場祭里、福土春佳

私たちは10/1、防災学習の一環として、山田湾に浮かぶオランダ島に上陸しました。オランダ島は、東北唯一の無人島海水浴場です。オランダ島へ上陸して、最初に島を散策しながら清掃活動を行いました。島は周囲900メートルあり、一周してみると広い島だなと感じました。周りは海に囲まれているため、陸と海に挟まれて散策することができます。

島では避難訓練を行いました。地震が発生し津波が来るという想定で、島にある防災無線の放送を聞きながら高台へ避難しました。島には避難路が2本あり、同じ高台へ避難できます。登ってみると、2本とも急で長い階段で、高齢者や子供連れには苦しいだろうと感じました。多くの人がスムーズに避難できるように手すりや照明をつけるべき

だと思いました。そして、避難場所となる高台は数日間過ごせるような設備が必要と思われました。島なので救助が遅くなる可能性が非常に高いので、倉庫を造り、非常用の食べ物や物品を置いたほうがいいと思われました。



ふるさと探究校外学習 **3年生 漁業体験**

9/29(火)、3年生49名は、山田町漁港・オランダ島・湾内の養殖棚などの見学と体験を通して、山田町の基幹産業である水産業への関心と理解を深める校外学習を実施しました。

3年A組 川野 愛美 さん

先日漁業体験があった。まず、屋根のない船に乗るのが初めてだった。水が体に飛んでくるのすら楽しかった。潮風を浴びながら山田湾を見て、とてもきれいだった。今までは養殖いかだを遠くから見て、なんだかよく分からなかったけれど、今回その意味が分かった。2・3年前から海の中にカキを入れて育てていることにびっくりした。そう簡単にできるものではないから、カキは高級なんだと分かった。また、山田町民なのに、カキのことやいかだのことを知らなかった自分に驚いた。オランダ島に初めて上陸して、ほのぼのとした空間が素敵だった。



3年A組 佐々木 修登 さん

オランダ島や漁業体験で学んだことは、少子高齢化で漁をする人が減ってきている中で、山田湾で好条件を生かしてカキやホタテを育て、たくましく働いてくれている方々に感謝しなければならないと思えました。オランダ島は、5年ぶりくらいに行きましたが、砂浜が広くなり、ゴミが減り、他の浜から砂を持って来て入れたり、オランダ島復活への作業が進んでいることを実感しました。また、オランダ島の山頂には神社があり、階段を登るのが大変でした。島の裏側では、土砂崩れが発生しており自然の怖さを知りました。



3年B組 佐々木 美羽 さん

山田湾に漁業体験に行き、山田町の海の魅力を感じることができました。まず船に乗って養殖をしているいかだを見に行き、カキの養殖が何年もかけて育つことを知りました。小さなカキを実際に手に持たせてもらいましたが、見たことのあるカキのサイズよりとても小さく、そこから育てるのに数年かけてプリプリのカキにするんだなと思えました。また、その後初めてオランダ島へ行ったのですが、想像以上に海が透き通っていて、山田町民の方々はもちろん、多くの観光客が是非来て欲しいと思えました。少し砂浜で遊んだのですが、現実を忘れてしまうほどのきれいな海で、充実した時間になりました。



3年B組 鈴木 陸翔 さん

今回の漁業体験で学んだことは、カキの養殖方法です。おじが漁師なので、一度見たことがあるのですが、その時は夜だったのでよく分かりませんでした。今回の体験で、長い年月で育てるということを学ぶことができました。大

島、小島も地盤沈下で砂が減っているのが少し悲しかったです。小学校低学年の時に行った時は、どちらの島も人で溢れていたのですが、現在は小島の砂が完全になくなっていて、さらに沈下を実感しました。大島はまだ残っていますが、砂がなくなるのも時間の問題だと思うので、このきれいな島を守っていくことができたいなと思えました。



初開催 **総合的な探究発表会**

11/27(金)、本校第一体育館を会場に初の試みとして「総合的な探究発表会」を開催しました。

関係各位にご案内をしたところ、ご多忙にもかかわらず、町内はもとより遠方からもたくさんの方々が本校へ足を運んでくれました。生徒のプレゼンテーションに耳を傾け、質問や助言をいただいたことは、生徒のこれからの探究活動だけではなく、学校生活を主体的に送ろうとする一助になったと思います。(11/30付 岩手日報に掲載)

目的	総合的な探究を通して、学んだことやさらに探究したいことを発表し、自己の在り方・生き方について考えを深める。
内容	1年生『碑の記憶』 10グループ 2年生『復活の記憶』 8グループ



全体会：校長挨拶及び趣旨説明



1年生：パワーポイントでの発表



2年生：ポスターやiPadでの発表

来校者のご意見・ご感想

- よくまとめられていると感じました。発表の態度もしっかりしています。
- 紹介いただき、ありがとうございます。また情報共有等できると嬉しいです。
- 住職さんがゲストとして質問を積極的に行い、また意見を述べるなどユニークな場面があったのがよかったです。新聞社やTV局などのマスコミが多数来ており、タイアップが強いと感じた。マスクをしておの発表なので、聞き取りにくい面もあったが、頑張っている姿に感動した。
- もっとたくさんの方に見てほしいくらいの内容。次回はできることを願っています。
- コロナ禍ということもあり、多くの人に見せることができなくて残念。ぜひ来年は校外の人も参加できる環境になってほしいです。